「日々の理科」（第 2654 号） 2021,10,19

「海底火山の軽石（１）」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中　千尋　Chihiro Tanaka

昨日、自宅に大きな段ボール箱の郵便小包が届いた。差出地は鹿児島県の奄美大島。私が奄美の友人に依頼して、送ってもらったものである。

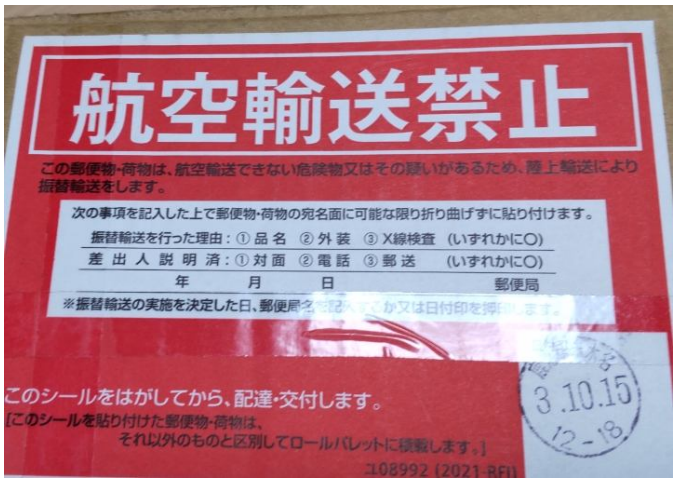
かなりの大きさの荷物だが、意外にも軽い。それもそのはず、中身は「軽石」なのだ。

さっそく箱を開けると、こぶし大の軽石から砂のような軽石まで、大小さまざまな軽石が詰められていた。

さてこの軽石、「産地」を説明するのがちょっとむずかしい。「東京都小笠原諸島」とも言えるし「鹿児島県奄美大島」とも言えるのだ。実はこの軽石、８月に小笠原諸島の海底火山噴火によって噴出した軽石が、はるか奄美大島の海岸に漂着し、それを採取してもらったものなのだ。従って、原産地は小笠原、採取地は奄美という、複雑な生い立ちなのだ。

大きい軽石は、「南海日日新聞」にくるまれていた。海岸の汀線に落ちていて、ぬれていたものを、乾かしてから新聞紙にくるんで送ってくれたのだ。本当に有難いことである。

この軽石が生まれたのは、小笠原諸島の無人島「南硫黄島」の近くにある「福徳岡ノ場」（ふくとくおかのば）と呼ばれるギョー（海山）である。



箱には「航空輸送禁止」のシールが貼ってあった。「陸上輸送により振替輸送します」とも書いてある。奄美大島から「陸上輸送」するほうが、よほど難しいと思うのだが、軽石は航空機には搭載禁止のようだ。